

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 9月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	4079400125		
法人名	社会福祉法人 日王福祉会		
事業所名	グループホーム くぬぎの里		
所在地 (電話番号)	〒822-1202	福岡県田川市福智町神崎1056-114	(電話)0947-22-0280
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成21年8月29日	評価確定日	平成21年 9月 9日

【情報提供票より】(平成21年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 13 人	非常勤 0 人 常勤換算 13 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	築 7年
建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要(平成年月日現在)

利用者人数	16 名	男性	4 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82,62 歳	最低	69 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・ 宇都宮医院	・ すみれクリニック
---------	---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町営のグラウンド、公園、温泉センター、プール等、自然環境 豊かな緑の中に、デイサービス併設のグループホームくぬぎの里がある。広い駐車場から玄関を入ると、たくさんの水槽があり、いろいろな魚が利用者や職員、来訪者の目を楽しませている。管理者や職員は、利用者一人ひとりを、急がず、あせらず、ゆったりと、ありのままの姿で受け入れ、穏やかな日々の暮らしを共に過ごし、家族からの信頼も厚い。利用者の楽しみな食事は、法人内の栄養士が、利用者の好みを取り入れ、カロリー計算をして作成し、職員と一緒に、同じテーブルでの食事風景は楽しそうで、食欲も旺盛である。管理者と職員は、利用者の身体機能低下を防ぐ目的で生活リハビリを取り入れ、散歩等の外出の機会を増やしている。また、訪問看護で利用者の健康管理に取り組んでいる。地元の中学生の体験学習や地域の行事に利用者と職員が参加し、交流を図っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点は、「評価の意義の理解と活用」「権利擁護に関する制度の理解活用」「家族への報告」「人権教育・啓発活動」「職員を育てる取組」「災害対策」の6件であったが、管理者、職員の頑張り半減している。今後は「権利擁護に関する制度の理解活用」「人権教育・啓発活動」「災害対策」の3件が課題として取り組むことが望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はミーティングで話し合い、管理者がまとめて作成している。管理者と職員は評価の意義を理解し、評価結果を全員で回覧し、改善に向けて努力している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は2ヶ月毎に開催し、利用者、家族代表、区長、教育委員、行政職員、ホーム関係者で構成し、ホームの現状、問題点、行事などを報告し、参加者からは質問、要望、情報提供などが出され、活発な会議である。管理者は会議がマンネリ化しないように、年6回の会議の日程や議事録を考え、参加者の積極的な協力と参加が得られるように努力している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に大きな意見箱を設置し、内外の苦情窓口を掲示し、家族の相談がスムーズにできるようにしている。家族来訪時には職員が親しく話しかけ、家族の要望を聞き出して、ホーム運営に反映できるように工夫している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の方にデイサービスと協同での祭りの案内のチラシを配り、参加してもらったり、地元中学生の体験学習を受け入れたりと、派出所、消防団に手作りの物を利用者と職員で配ったりして、交流の輪が広がっている。今後は避難訓練等を運営推進会議のメンバーに協力を要請し、地域の方の協力を得て夜間を想定した訓練等を実施していくことが望まれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	職員全員で掲げた、事業所独自の理念、「地域と共に一人一人が笑顔でノビノビとした温かい生活を…」を基本に個人の心を尊重し、泣いたり笑ったり、共に支え合え、急がず・あせらず・ゆっくりと暮らし続けることを支援している。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	玄関には、理念を掲示し、毎朝のミーティングでは、申し送りを伝えながら、管理者と職員は理念を唱和し、共に理解し実践に取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	地域の行事には積極的に参加し、お正月のお餅、バレンタインチョコなど、利用者と職員の手作りの品を、地域の消防署、警察等に感謝の気持ちを届け、交流に努めている。又、3ヶ月毎の誕生会には保育園児の来訪があり、利用者の楽しみのひとつでもある。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価は、職員がミーティングで話し合い、管理者がまとめて作っている。管理者、職員は自己評価の意義を理解し、評価結果を受けて改善に向けて努力している。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催され、利用者、家族代表、地域の福祉課長、教育委員、区長、管理者、職員で構成されている。ホームの状況や行事などの報告を行い、参加者からは質問などがあり、活発な意見交換の場となっている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			
6	9	市町村との連携	福智町の行政担当者として、積極的にホームの運営や、介護サービスに関する相談、情報交換に取り組んでいる。		管理者や職員の経験を活かし、地域の介護教室を開催するなど、行政と協働していくことを期待したい。
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
		権利擁護に関する制度の理解活用			
7	10	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や一部の職員は機会あるごとに研修を受けているが、全員が共有して利用者、家族に説明出来る体制にはない。		日常生活自立支援事業や成年後見制度の研修会に、参加し内部研修で職員全員が共有し、利用者、家族にいつでも説明やアドバイスが出来るような体制が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
		家族等への報告			
8	14	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に、利用者のホームでの様子や健康状態を伝え、定期的に、「くぬぎ便り」と利用者のスナップ写真とホームの行事案内などを送付している。金銭管理についても、家族に報告をしサインをいただいている。		
		運営に関する家族等意見の反映			
9	15	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には手作りの意見箱が設置されているが、家族からの意見はなかなか入らない。家族の訪問時には、職員が話し易い雰囲気をつくり、意見や希望を聴き、出来るだけホーム運営に反映するように努めている。		
		職員の異動等による影響への配慮			
10	18	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の異動を出来るだけ抑える為の工夫をし、職員の離職の場合は、利用者へのダメージを最小限にするよう職員間で努力している。また、管理者は、新人の職員が、早期に利用者との馴染みの関係が出来るよう配慮している。		
		人権の尊重			
11	19	法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用条件は特になく、高齢者をお世話することが好きな方等に決めている。管理者は、職員が生き生きと笑顔で仕事が出来よう配慮し、休憩室や個人ロッカーも完備し、休憩時間も交替で取っている。職員はお揃いのTシャツを着用し雰囲気も和やかである。		
		人権教育・啓発活動			
12	20	法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	管理者は、ミーティングで、利用者、来訪者に対する言葉使い等について常に話し合っている。職員の外部研修への参加までにはいたっていない。		人権教育に関する外部研修に参加し、研修を受講した職員は伝達講習をし、知識の共有を職員全員で図ることが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
		職員を育てる取り組み			
13	21	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員の外部・内部の研修会への参加や資格修得には全面的に支援し、知識や技術の向上に努めている。また、研修会参加後、ミーティングで全職員に周知している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上	地域のグループホーム協議会に加入し、同業者との情報交換の機会を作り、交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居希望者は、ホームのレクリエーションに参加し、職員と触れ合って馴染みの関係が出来、利用者と家族が納得して入居している。利用者の環境の変化による戸惑いに配慮し、体験入居は行っていない。		
		本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	職員のペースではなく、利用者のその日の心身の状態に合わせたペースに沿って、泣いたり笑ったり共に共感し合える関係を目指している。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	一人ひとりの個別ケアを重視し、利用者の思いや意向は介護記録に記載している。表出が困難な時は、利用者との、日常の会話や表情からくみ取るように努め、利用者が穏やかに安心して暮らせるように支援している。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	管理者は、利用者、家族の意見や要望を聴き医師や、担当職員と話し合い、利用者がその人らしく暮らせるよう個別の介護計画を作成している。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	介護計画は3ヶ月毎に、現状に即した見直しを実施している。又、利用者の状態変化に応じてその都度、家族に連絡し、介護計画の見直しをしている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のかかりつけ医への受診には、必ず職員が付き添い、送迎などを支援している。また、併設のデイサービスと合同で行う誕生会、週1回の訪問看護や訪問歯科で、利用者の健康アドバイスを受け、理・美容などの送迎支援も行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望を大切に、かかりつけ医を受診している。緊急の場合は、提携医との協力も得られている。受診内容は、個人記録や申し送りノートに記録し、全職員で把握している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期ケアの指針を作成し、入居時に利用者、家族に説明をし、同意書も作成している。利用者の気持ちを大切に、安心して終末期を過ごせるよう対応している。また、医療機関とも連携を行なっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者とは会話をするときは、強い口調、大きい声にならないように心掛けている。個人情報記録した書類は、鍵の掛かる書棚に保管し、細心の注意をはらっている。利用者の写真掲載についても、家族の同意を得ている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れはあるが、職員のペースを優先するのではなく、利用者のペースを大切に、その日の、一人ひとりの体調や希望に合わせて、支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	広いリビングで、利用者と職員と一緒に食事の準備をし、食卓を囲んで楽しい食事風景である。職員は会話を楽しみながらも常に目配りをし、さりげない支援をしている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴で、浴室は広く車椅子対応で、お風呂はいつでも入れるように整っている。また、利用者の体調や希望を考慮して柔軟に対応し、ホーム前の温泉に同行し、入浴が楽しめるように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者の生活歴、興味、希望を把握し無理の無い範囲で、毎月のカレンダー作り、魚の餌やり、折り紙など一人ひとりの力を発揮できるよう支援している。利用者の希望により、外食や買物、ドライブなどをして気分転換できるように支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、日常的に散歩、買物、ドライブ等に出かけ、季節を肌で感じてもらい、気分転換やストレスの発散が出来るように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵をかける弊害を理解し、昼間は、通常玄関の鍵はかけていない。利用者の安全面には細心の注意を払い、利用者の外出の気配を感じたら、さりげなく目配りし、ホームの外に出ても無理に止めず、それとなく付添い見守っている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練や避難経路の確認・消火器の使い方などの訓練は定期的に実施している。		地域住民の協力を得て、夜間を想定した避難訓練を運営推進会議で議題として検討したり、非常災害時に備えて、利用者が容易に摂取出来るような、非常食や飲料水、毛布等の備蓄が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者の、食事や水分の摂取量を把握し、記録している。栄養のバランスを考え、隣接のデイサービスの栄養士が献立をたてている。夕食は、利用者の希望を聞き、一人ひとりの力に合わせて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい居間や手すりがつけられた廊下には、ホームの行事でスイカ割の楽しそうな写真や、皆で作成したパズルなどが飾られ、季節感のある雰囲気になっている。居間には、長いソファが置かれいつでも寛げるよう配慮されている。湿度、温度、換気は利用者の状態により調整されている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりのニーズに合わせて、過ごしやすいように、好みのものを活かし、利用者の生活スタイルに対応できるように居心地良いスペースが確保されている。		